

新たな国土を測る

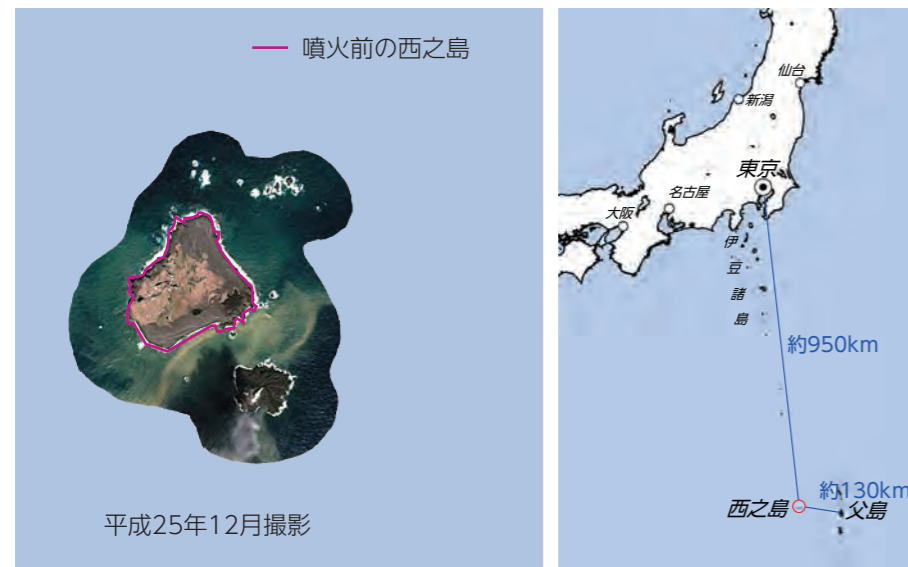
離島の基準点を整備

我が国の領海や排他的経済水域の確定等に重要な役割を担う離島について、正確な位置情報と地図を整備するため、離島に基準点を設置し、緯度・経度・標高を求める測量を行っています。

東京から南方約950kmに位置する西之島は平成25年11月から噴火が始まり、島の地形が大きく変化しました。これを受け国土地理院は、海上保安庁の協力を得て、平成28年10月に西之島に上陸し現地測量を実施しました。

西之島の変遷

測量用航空機「くにかぜⅢ」等による空中写真撮影により、西之島の面積が噴火前と比較しておよそ10倍に増大したことが分かりました（平成28年7月時点）。今後は、設置した三角点と空中写真を用いて、地図を更新する予定です。



西之島に上陸して（植田勲・大森伸哉）



西之島での測量風景（平成28年10月）

西之島の上陸に伴う人為的な生物の侵入を防ぐため、測量器材を燻蒸またはアルコール消毒し、ウェットランディング（全身を海水に浸らせること）をして上陸しました。また、島内での食事は、トマトなどの種子がある食物は持ち込めないため、乾パンやクッキーなどの行動食を食しました。

島内の地表は、誕生間もない荒々しい溶岩が幾重にも折り重なる状態で覆われ、雨水による侵食・風化により非常に脆い現状であったため、一等三角点と三等三角点の設置場所を決めるのに苦労しました。ただ、噴火前から生息していたアオツラカツオドリが子育て中であり、生まれたての雛はとても可愛らしく、私たちを和ませてくれたことが今でも心に残っています。